

学校評価

令和5年度 自己評価報告書

2024 令和 6年 3月 1日
 学) 松ヶ丘学園 高洲幼稚園

1 本園の教育目標

- 元気で みんなと 仲よく 遊ぶことも
- よく考えて 行動できる ことも
- 思いやりのある ことも
- 感情豊かなことも

カリキュラムの指針

---子ども同士のかかわりを深め、一人一人を大切にするために---

- ①基本的な生活習慣を確立し、ルールや約束ごとを守りながら運動や遊びに興味を持ち、思いきり身体を動かして遊ぶ。
- ②遊びや活動の中で正しい判断を持ち、自分の思っていることを主張できる。
- ③自分のことだけでなく、仲間のよさを認め、協力しあい最後まで取り組める。
- ④絵画や絵本、身体表現を通して自分の感じたことや思ったことを素直に身体やことばで表現できる。

目標・計画	自己評価	評価
1) 教育課程を見直し、改善点を探る。 (新型コロナウイルス感染症、5/8、5類感染症に移行)	幼児の姿や遊びの記録をもとに、教職員で定期的に話し合い、カリキュラムを見直す中で、ねらいや内容の見直しを行なった。	A
2) 教育の質の向上のために、園内研修を実施する。	以前のように、お互いの保育を参観し、エピソードを通して幼児の育ちを語り合い、保育の点検をしあう研修を再開した。	B
3) 特別支援教育園内支援体制を活用する。	特別支援コーディネーターを配置し、家庭や関係機関との連携を図り、個別指導計画の作成をした。	B
4) バス通園時の安全管理、門管理、給食及びアレルギー等、食事や健康面での安全に努める。また、コロナ経験を踏まえて、玩具や取っ手等の消毒、手洗い、場合によっては、マスクの着用による衛生管理を適切に行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・バスについては、安全装置の使用、運転管理に関する紙記録を毎回実施し、バスを含め、園内の消毒を徹底した。 ・通園門の開閉については、門で安全を図り、門に係の人(教職員)を立てる。 ・昼食・おやつ等の検食を毎回行い、給食会議等で管理栄養士とも連携する。 ・アレルギーについては、担当者と管理栄養士・保護者でルールに基づき安全管理を徹底する。 	A

5) 施設整備を行い、教育環境を整える。 園庭の遊具等の点検を実施し、安全に遊べるようにする。	・園庭遊具の管理は、毎学期、教職員が点検・記録している。ジャングルジムの木部の補修を一部行った。	B
--	--	---

2 本年度の重点的に取り組む目標・計画と自己評価

評価：5段階評価 A～E

3 教育についての総合的評価

2019COVIDも5類に移行して、集団教育の場でも、感染症の経験から学んだことを生かし、幾分の規制を残しつつも、上記3項目についての取り組みでは、幼児一人一人を大切にすカリキュラムにそって保育を復活させたいと考えてきた。徐々に2019年以前の水準に戻そうと考えてきたのであるが、この3年余は空白が多く、積み上げが難しかった。
 今後は、総合活動を続ける中で、発達についてより充実した話し合いができるよう、教職員に継続的意識的に働きかけたい。

4 個人面接及び懇談会・役員会を通しての保護者の評価

- 1) 総合的な活動（行事）を少しずつ経験できて、子どもたちが多少とも育ち始めた。
夏祭り・運動会での卒園生との交流や、みはま苑のお年寄りとの交流までは戻っていないが、少しずつでも復活を感じられてうれしい。（高洲幼稚園は、40年以上いろいろなかかわりを意識的に作ってきたが、COVID2019は一挙にそれを奪った。）
- 2) 子どもの成長する姿を見て、園の保育が少し復活したと思った。
- 3) コロナ禍で骨折した子がいたが、人工芝は安全につながると思う。

評価	評価項目	評価・説明
A	5 今後の課題 1) 保育の面から	子ども同士の関係性を大切にするために、小グループでの活動を通して自律的に成長できるよう援助しているのは、概ね保護者からも理解されていると思われる。しかしながら、外国人が増えてきたことと、2号児が多くなってきた中で、教職員の側のかかわりがどうあるべきかを更に研究して行くことが今後の課題である。
B	2) 施設整備の面から	全館LED証明に変えたいと考えており、次年度には再度、予算化の方向である。また、人工芝を遊具の下などに敷くことにより、3号児やハンデキャップを持つ子どもたちの安全を考える時、一定の効果を上げていると考えている。
A	6 理事会への報告	個別幼稚園としての評価については、年度末に理事会に報告し、承認を得た。また、頂いた意見は次年度に生かすよう努めたい。